

# 説 林



## 歐米の家庭教育及幼稚園

保育視察談 (承前)

下 田 次 郎

それから佛蘭西になりますと、佛蘭西は極く開けて居らぬ隠くすと云ふ方で、外國人は容易に家庭の有様を見ることは出来ぬ、それから懇意の人に頼んでも道入られぬ、だから下宿屋か或は宿屋に泊る、家庭は判らぬ、お坊さんの立てた高等女

學校は多くあつて私立で上流社會の子女が多く入學するが外と交通遮断で昔し高野山は女は登られぬ様に男は這入ることは出来ぬ、他の高等女學校は生徒の多數は父兄や下女が門まで送り迎ひ致します、家の内ではドウやつて居るか判りませぬ佛蘭西の主義は自由と平等と兄弟と云ふことを真つこりに翳して居る、で自由の思想が染み渡つて子供でも十歳以上になると父兄は子供を壓制せぬ故に子供が親の手に合はぬと云ふのがまゝゐる、向うでは幼稚園はエコール、マテルナルと云つて母の仕事をするると云ふことである、巴里は奢侈な所であるが多數の細君は極めて節儉で家を濟へることは上手でありまして餘程經濟的に考へて居る巴里で面白いのにはクレシユと云つて赤子幼兒を預る、或は赤子を養ふ所です、御承知の通り佛蘭

西は今日人口が殆んど居すわりの有様にゐるので、全体から言へば少し増すが小兒は大事にせねばならぬ。少しの小兒でも物にしやうと云ふので巴里には孤兒院があつて、警察の拾ひ上げた赤子。又食はれぬと言つて持つて来る赤子を收容して養ふて居ります。此處に(寫眞を示して)乳母車の様な寢臺の内に小兒を入れて居りますが斯ういふ工合にやつて居ります、舊とは小兒を門の處に持つて行つて夜など誰が置いたか判らずにして置いといたから、今日は晝でもお母さんが持つて来て事情を言ふと受取ると同時にお母さんも保姆として呉れることがある、棄子養育院に參つた時は十五六人居て皆乳母が附いて居ります、また棄子でない方で父母が病氣中とか又は母が勞働して其間赤子を預け乳母が乳を吞ますもありません、棄子を預つ

て置くといふ二種類の赤子の置場があります、此處にはまだ大きな住所不定等の孤兒を預るので、併し大凡二週間以内は地方の孤兒院に分けるのでありますから、出入常なく、どん／＼變つて居ます、二三日で地方へまわされるのもある、赤兒もどうぞあります。それで、棄てる様な赤子は病氣が多いから熱病とか傳染病の赤子は隔離室があつて他の子に感らぬ様になつて居る、これ(寫眞を示し)は乳母が赤子を抱いて居る所であります、西洋では赤子をグル／＼捲いて捲いた切りにして居ります、それから此處に小兒の預所と云つても少し多い小兒はお母さんが働いて居る間待つて居る所があります、それから巴里では彼方此方にクレーシユといふ小兒を預る所があります、其の一つに參りましたが、衛生上の設備が能く出來

て居て、婦人が二人居て小兒は三十三人、其處へ生れて十五日から三歳までの子供が来る、申込が多くて這入れぬ程である、私の行たのは第五區であるが其處にも三つある、巴里全体では大分ある、これは一日に六錢程拂へば着物から食事を与える、世話して呉れるのであります、食後には寢床があつて寝る、又運動には圓い柵があつて其内で運動し、外には椅子があつて並んで居ります、これ(寫眞を示し)は赤子が寢て居るのであります(寫眞を示し)は赤子が寢て居るのであります、日本では斯ういふ様なことを一向やつて居らぬと思ひますそれからクーブーツダンファンと云いつて妊娠六ヶ月位以後の者を物にしやうと云ふ保育器で、詰まり人口を殖やさうと云ふのです、小兒の月足らずは冷却して死ぬ、生れて數時間で身體が冷却す

る、これまで冷却する時には綿などで包んでも營養がないから冷えて来る、金屬で箱を造つて其床下に管があつて湯を通す、寒暖計があつて温度を見て居る、空氣抜きが上下にある、又時に依れば酸素とかオゾンなどを機械的に送るやうになつて居る、場合々に應じてやつて居ります、此處(寫眞を示し)に小兒が入られて寢て居る。これは巴里の博覽會にも出て居たし、巴里の銀座通りには何時でもやつて居りませう、大事の小兒が徐かに冷却して死なんとする時に此の機械で家の内で暖められる、今やつて居るは貧困の者に廣告の爲めにして居るので巴里ではそれが目に着きますロシアのペテルブルグ市の孤兒院は巴里に劣らぬ程盛んに赤子が百人以上も居て乳母が澤山ついて居つたを見受けました、

英吉利では重なる學校は私立で、公立學校は中等以下の資力乏しい者が行く、金の有る者は私立の學校に行いて父兄の要求に依つてドウでもなると云ふ風であります、學校々々に依りて特長があるやうである、佛蘭西、獨逸に於ては文部省が一の命令を下すと全國同じ事をやるが、英吉利はさういふ風で餘程差ひがある、詰まり生徒を全体と見ずしてそれ／＼の資性を有つて居る個々の人間として教育をして居る様である、家に依つては先生を置いて一人々々の教育をして居る所もありまゝ、家と學校の連絡は近くて密な様である、學校そのものが家庭の性質を帯びて居る、寄宿舎の如きも澤山の生徒が居ても我國の如く多數の者が一の室に居てがや／＼して居る所はありませぬ、生徒數の割に家が大きくなつて居ります、それは他

の問題であるが兎に角家と家庭の關係は近い様であります、英國の家庭は初めて行くと窮窟で、巴里は朝何時迄でも寝て居らるゝ、英國は朝は八時か八時半、其頃に鐘が鳴ると一時に食堂に集つて食ふ、晝は一時頃、夕は七時頃になるとチャンと其處に出て食ふ、キチリ／＼して居るから慣れると便利になります。

それから大陸に於ては一の家を一族が有つて居ることは少くして二階には別の家族が居り、又三階に別の家族が居るが、英國は一族で一の家を有つて居るは珍らしくない、自分の家は庭も皆な自分で有つて居る、其間の趣きが大陸と餘程異つて居る様であります、英國は經濟の發達した國であるが、案外不經濟の處もあつて細君がモツと、經濟の出來ると思ふは下女を使ふに一寸した

所でも三人も使ふ、多い所は十人も使ふ、佛蘭西から來た目には餘程無駄があるやうに考へる、子供は餘程自由な所があり、一般に人間が上品である、ゼントルマンと云ふ語は他の語に譯せられぬ含蓄がある、さうして家族間でも言語を慎む、客と主人が話す時に細君が來れば主人が話を止める事もある（日本では無遠慮に話す場合に於て）日本では随分家族の間に無作法な言語の行はるゝことが澤山あるやうに考へるのであります。

それから一体田舎の生活が好きであつて、學校でも教場に花を挿すは何でもない、少し金の有る學校は窓の外に植木鉢が澤山並べてあります、少し良き家になると温室があつて其内に花を蓄へて運動がてら養ふて居る。

それから向うではサンドウと云ふ方のある人があ

る、サンドウの体操學校と云ふものがあり又、体育雜誌を出して居ますが、これで赤子に賞與を與へる、即ち毎月一番体格の良い赤子に、拾圓を與へる、今度は何處の御母さんが斯ういふ子を産んだと云ふことが出て居る、英國では幼稚園としては一二ツしか見なかつたと思ひます、小學校の方を見たのであります、粘土をつくねるか、手工の事は餘程發達して居るやうであります、英國は實際から來るので議論は後と廻はし、實際の方が餘程發達して居ります、英國には國民フレール組合及フレール會を始め多くの幼稚園保姆養成所及幼稚園があります。

伊太利は羅馬で見た所によると日本よりは劣つて居る所もありません、唯々手工が上手で幼稚園の婦母が柳の皮を鉤に掛けた様な物で籠を編んだり

巾着を作つたり餘程精工なものがありません、

それから今度は亞米利加、亞米利加も高等の學校と云ふものは多くは私立であつて、英吉利のオックスフォード、ケンブリッヂが私立である様に、

米國のハーバード、エールなども私立でございませ

す、其内教員養成所として大なるは紐育、コロ

ンビア大學の一番良い、其處にも幼稚園がありま

す其横にホレースマン學校と云ふがあつて、それ

は模範學校で、人の見に来る學校です、向ふでは

模範學校と練習學校は區別して居る、日本は模範

學校と練習學校と一緒に居るが、日本は

上流社會の子女も練習用にせらるる、西洋では

練習用に供せられぬ、日本では政府の造られた學

校は今日の所實際宜いでありますから上流社會

の子女も練習學校に這入つて居るこれは本則では

ない、コロンビアの横に模範學校があつて幼稚園

もありません、幼稚園は私の行つた時は余り仕事を

して居らぬであつたが、模範學校であるから生徒

は奇麗な着物を着た者ばかりで、鐵道馬車の練習

がござりまして、一人が車になつて町の角の所に

子供が立つて居る、先生が何丁目々々と云ふと

車となつて居る子供が立ちまつて、又車が行く様

にして練習して居りました、又極めて簡単な書で

山、天幕、車、ならば斯ういふ(眞似)ものを書き

それに且とかYとか繪に似た字を交せて教へて居

りました、米國では高等教育を受くる者は男子よ

り女子が多い、故に高等學校に行つても向うでは

共同教育であるから小學校を始め女だけを見るこ

とは出来ぬ何處でも一緒である、中等以上の學校

は女が多數で男は寄せて貰ふて居る様に隅にチヨ

ンバリ居る學校もありません、殆んど女子に政治の他は許されぬことはない様になつて居る、故に高等の家庭に於ては教育の有る女は澤山居ります、向うは金を儲ければ宜いと云ふのであるから、早くから男は商業とか工業とか金の儲かるやう實地に入るが、女は富有であるなら暇もあり金もあると云ふので高等の教育を受ける、受けられたらつて夫を穿鑿する時に、自分より夫の學力が低いと云ふので不平で生涯獨身と云ふ者が多くある、原因はそればかりでもありません、亞米利加は幼稚園が盛んで、私の見たのはコロンピヤとシカゴの大學だけであり、シカゴの大學附屬小學校長にデューブーンと云ふ人があつて、種々の事を考へて居ります、人類の發達と個人の發達は其間に似寄りがあつて、昔し人類の野蠻の時は機を織つ

たり煮炊きをしたり、家事を自らやつて居つた、今日は分業が進んで家事をやる者は家事をやるものとなつたが昔しはさうは行かぬ、それで人類の初めは小兒の時に能く當つて居るものであるから簡單な編物とか煮炊きとか云ふものを子供にやらすは適當の事であると云ふので幼稚園でも煮炊きをやらすジャムとか一寸物を煮て蓄へる、編物と云つても小さい易いものであります、學校に居ても成るべく家と區別のないやうにしやうと云ふので學校が家庭的にでき父兄も時々行つて居ります、餘程餘所の學校と様子が差々様であります、此人は「學校と社會」と云ふ本を著はして自分の意見を述べて居ります。

(次號にて完結)